

[10] モンゴル

1. モンゴルの概要と開発課題

(1) 概要

モンゴルは、1990年の民主化、市場経済への移行後、新たに設置された国家大会議（国会）の第1回議員総選挙（以下「総選挙」）では、社会主義時代の政権党である人民革命党が政権を維持した。その後、現在まで4年毎に総選挙が行われ、民主連合政権や大連立内閣の発足といった変遷を経てきている。2008年6月に行われた第5回総選挙では、選挙結果を巡り民主党支持者等がデモを実施し、一部が暴徒化したことから、事態を鎮静するため、エンフバヤル大統領（当時）は、モンゴル史上初めてウランバートル市に非常事態を宣言した。第5回総選挙の結果、人民革命党が過半数を大きく上回ることとなったが、同年9月、政治の安定のため人民革命党と野党民主党との大連立政権が誕生し、バヤル人民革命党党首が首相に再任された。バヤル首相は新たな連立の発足に伴い省庁再編に着手し、産業・通商省の対外通商・貿易部門を外交・貿易省、鉱物資源部門を鉱物資源・エネルギー省にそれぞれ移管するなどの行政改革を行なった。2009年5月の大統領選挙では、民主党が擁立したエルベグドルジ（元首相、前民主党党首）が現職のエンフバヤル大統領を破り、6月に大統領に就任した。2009年10月、懸案だったオオートルゴイ銅・金鉱床開発に係わる投資契約の締結が政府と関係企業との間でなされた後、バヤル首相は、病気を理由に辞任し、バトbold外交・貿易大臣が首相に就任した。

モンゴルは、隣国の中国及びロシアとの関係維持を基礎としつつ、欧米先進国や我が国などを「第三の隣国」として外交の多極化を図ることを基本方針としている。また、非同盟諸国会議、ASEAN 地域フォーラム（ARF:ASEAN Regional Forum）への加盟、及びアジア欧州会合（ASEM:Asia Europe Meeting）への参加を果たしたほか、APEC への加盟を目指している。また、1992年に非核地帯化を宣言し、1998年にはモンゴルの「非核兵器国の地位」が国連総会で承認されるなど、大国に挟まれた小国として独自の外交戦略を展開している。

我が国とモンゴルとの間では、2006年には両国の首相の同一年内の相互訪問（2006年3月にエンフbold首相（当時）が訪日、同年8月に小泉総理（当時）がモンゴルを訪問。）が実現し、日本モンゴル外交関係樹立35周年を迎えた2007年には、2月にエンフバヤル大統領（当時）が訪日したほか、7月に皇太子殿下がモンゴルを御訪問された。また、2009年7月にはバヤル首相（当時）が訪日したほか、2010年8月には岡田外務大臣（当時）が我が国の外相としては6年ぶりにモンゴルを訪問、同年11月にはエルベグドルジ大統領が訪日し、二国間の協力・信頼関係は更に深まった。

モンゴル経済は、1990年代の市場経済体制への移行により、極度の物資不足となり、深刻な危機に陥った時期もあったが、我が国を中心とする各国からの経済協力やIMF など国際機関の指導・助言の下、大胆な自由化・構造改革が推進された。経済成長率は、モンゴルの主要輸出品である銅、カシミヤの世界市況の好調さを背景に、2007年には10.2%、2008年は8.9%であったが、2009年には2008年後半の世界同時不況の影響を受けて、▲1.6%となった。また、インフレ率は、2007年が国際的な石油価格、小麦価格の高騰等の影響を受け9.6%と上昇し、2008年は石油製品価格の高騰や公務員給料の上昇、給付金の支給等により昂進し、28.0%まで上昇した（出典：ADB Indicator for Asia and the Pacific 2009）。一方、2008年後半の世界的な経済・金融危機による鉱物資源（銅及び金など）の国際価格の大幅な下落を受けて、2009年の財政収支は大幅な赤字が見込まれたことから、2009年の4月から18か月間の予定で、IMFの財政支援を受けるため、スタンバイ・アレンジメントに合意し、歳出を削減し緊縮財政を実施している。

(2) 国家開発計画

(イ) ミレニアム開発目標に基づくモンゴル国家開発総合政策

モンゴル政府は、2008年1月、民主主義社会における自国民の発展、自国の経済、社会、科学、技術及び文化の大いなる発展を目的とし、今後14年間の政策を世界及び地域の発展と密接に関連付けて、包括的に示した「ミレニアム開発目標に基づくモンゴル国家開発総合政策（以下「総合政策」）」を策定した。

(ロ) 政府行動計画

2008年11月に策定された「2008年～2012年までの政府行動計画」では、①資源開発の加速化、鉱業生産による利益の国民への配分の実現、②工業化の推進、地場産業の振興、③農牧産品の自給率の向上、④保健・教育・雇用環境の整備、技能労働者の人材育成、⑤行政の透明性・責任の向上による国家と国民の相互信頼の強化、といった5つの基本目標が掲げられている。

表－1 主要経済指標等

指 標		2008 年	1990 年
人 口 (百万人)		2.6	2.2
出生時の平均余命 (年)		67	61
G N I	総 額 (百万ドル)	5,127.32	1,859.00
	一人あたり (ドル)	1,670	1,170
経済成長率 (%)		8.9	-2.5
経常収支 (百万ドル)		-	-639.50
失 業 率 (%)		2.8	-
対外債務残高 (百万ドル)		1,721.35	-
貿 易 額 ^(注1)	輸 出 (百万ドル)	-	492.90
	輸 入 (百万ドル)	-	1,096.20
	貿易収支 (百万ドル)	-	-603.30
政府予算規模 (歳入) (百万トログ)		1,964,868.42	-
財政収支 (百万トログ)		-215,244.11	-
債務返済比率 (DSR) (対GNI比, %)		1.4	-
財政収支 (対GDP比, %)		-3.5	-
債務 (対GNI比, %)		28.4	-
債務残高 (対輸出比, %)		42.4	-
教育への公的支出割合 (対GDP比, %)		-	-
保健医療への公的支出割合 (対GDP比, %)		-	-
軍事支出割合 (対GDP比, %)		-	5.7
援助受取総額 (支出純額百万ドル)		246.46	13.05
面 積 (1000km ²) ^(注2)		1,564	
分 類	D A C	低中所得国	
	世界銀行等	iii / 低中所得国	
貧困削減戦略文書 (PRSP) 策定状況		PRSP策定済(2003年9月)	
その他の重要な開発計画等		「政府行動計画、ミレニアム開発目標に基づくモンゴル国家開発総合政策」、「2008年～2012年までの政府行動計画」	

注) 1. 貿易額は、輸出入いずれもFOB価格。

2. 面積については“Surface Area”の値（湖沼等を含む）を示している。

表－2 我が国との関係

指 標		2009 年	1990 年
貿易額	対日輸出 (百万円)	678.35	2,591.62
	対日輸入 (百万円)	9,937.25	2,113.15
	対日収支 (百万円)	-9,258.90	478.47
我が国による直接投資 (百万ドル)		-	-
進出日本企業数		10	-
モンゴルに在留する日本人数 (人)		366	29
日本に在留するモンゴル人数 (人)		4,917	27

モンゴル

表－3 主要開発指数

開 発 指 標		最新年	1990年
極度の貧困の削減と飢饉の撲滅	所得が1日1ドル未満の人口割合 (%)	10.8(1990-2005年)	
	下位20%の人口の所得又は消費割合 (%)	7.1(2008年)	
	5歳未満児栄養失調割合 (%)	5.3(2005年)	
初等教育の完全普及の達成	成人(15歳以上)識字率 (%)	97.3(2005-2008年)	90(1985年)
	初等教育就学率 (%)	88.7(2001-2009年)	90(1991年)
ジェンダーの平等の推進と女性の地位の向上	女子生徒の男子生徒に対する比率(初等教育)	99(2008年)	
	女性識字率の男性に対する比率(15-24歳) (%)	98.4(2005年)	
乳幼児死亡率の削減	乳児死亡率 (出生1000件あたり)	34(2008年)	—
	5歳未満児死亡率 (出生1000件あたり)	41(2008年)	98
妊産婦の健康の改善	妊産婦死亡率 (出生10万件あたり)	46(2003-2008年)	—
HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止	成人(15-49歳)のエイズ感染率 (%)	0.1(2007年)	
	結核患者数 (10万人あたり)	210(2008年)	210
	マラリア患者数 (10万人あたり)	—	
環境の持続可能性の確保	改善された水源を継続して利用できる人口 (%)	76(2008年)	58
	改善された衛生設備を継続して利用できる人口 (%)	50(2008年)	—
開発のためのグローバルパートナーシップの推進	債務元利支払金総額割合 (財・サービスの輸出と海外純所得に占める%)	1.4(2008年)	—
人間開発指数(HDI)		0.622(2010年)	0.52

2. モンゴルに対する我が国ODA概況

(1) ODAの概略

モンゴルに対する我が国の経済協力は、1977年「ゴビ・カシミヤ工場建設」に係る無償資金協力に始まる。1989年度までは、研修員受入、専門家派遣、機材供与を中心とした技術協力及び文化無償資金協力にとどまっていたが、1990年にモンゴルが社会主義体制から民主化、市場経済体制に移行後、1990年度に無償資金協力を再開し、1991年度には有償資金協力を初めて供与するなど、本格的な二国間援助を開始した。

(2) 意義

(イ) 地政学的重要性

中国とロシアに挟まれた内陸国であるモンゴルの民主主義国家としての成長は、北東アジアにおける安定と平和に資するもので、我が国の安全保障、経済的繁栄と深く関連している。

(ロ) 戦略的パートナーシップ

我が国とモンゴルの関係は歴史的に緊密で、近年、幅広い分野で双方向的な二国間関係に発展しており、特に経済関係を中心に互恵的かつ相互補助的な関係の強化のため、幅広い分野で一層の協力関係を戦略的に確立する必要がある。

(ハ) 市場経済化の促進

自国のオーナーシップの下、国営企業の民営化や、国内制度の整備を通して市場経済化を促進するモンゴルへの支援は意義が大きい。

(ニ) 地球的環境保全・伝統文化保護

市場経済化の中で進む自然破壊、貴重な伝統文化の衰退に歯止めを掛けることは、地球的環境保全及び伝統文化保護の観点から重要である。

(3) 基本方針

1990年に対モンゴルODAを本格化して以降、我が国はモンゴルにとって最大の援助供与国であり、二国間関係は緊密になっている。我が国は2004年11月に、対モンゴル国別援助計画を策定しており、持続的な経済成長を通じた貧困削減への自助努力を支援することを上位目標に置き、この達成のため、地方経済を底上げするとともに、牧畜業の過剰労働力を他セクターにおける雇用創出により吸収することを中位目標として、以下の4つの分野を重点分野として定めている。このほか、貧困層や社会的弱者を直接の対象とした支援について

は、例えばNGO による活動を草の根・人間の安全保障無償資金協力、日本NGO連携無償資金協力等を通じて支援していく方針である。現地ODA タスクフォースでは、随時会合を開催し、対モンゴル支援の現状や今後の課題等につき、情報・意見交換や、案件の円滑な実施のための調整を行っている。

(4) 重点分野

- (イ) 市場経済を担う制度整備・人材育成に対する支援
- (ロ) 地方開発支援
- (ハ) 環境保全のための支援
- (ニ) 経済活動促進のためのインフラ整備支援

(5) その他留意点・備考点

我が国とモンゴルの両国は、これまで「総合的パートナーシップ」の下、良好に発展してきた両国関係を、今後、「戦略的パートナーシップ」の構築に向けて発展させることで一致しており、特にモンゴルの豊富な鉱物資源開発における互恵的かつ相互補完的な関係の構築等、経済面での協力の一層の強化に努めていくことで一致している。

また、両国は、経済連携協定（EPA）の締結を検討するため、2010年6月から官民共同研究を開始し、双方の産官学界関係者の出席のもと、2回の会合が行われ、EPAのプロセスの着実な進展を見た。

3. モンゴルにおける援助協調の現状と我が国の関与

対モンゴル支援国会合は、2003年11月に東京で実施された第10回会合を最後に開催されていなかったが、モンゴル政府とドナーとの意思疎通の強化、ドナー・コミュニティ間の連携と援助協調促進等を目的として、2006年2月に第1回ドナー技術会合がウランバートルで開催された。その後、2006年10月に第2回、2007年4月に第3回、2008年1月に第4回のドナー技術会合がウランバートルで開催された。2009年3月には、モンゴル政府がIMFによる支援を受けることを前提に、ドナー国から財政支援を受けるためのドナー会合が開催された。その際、我が国は2009年及び2010年の2年間にわたる支援として50億円を供与限度とする円借款のブレッジを行い、2009年6月に28億9,400万円（社会セクター支援プログラム）の資金支援を行った。

ドナー技術会合のほかに、ウランバートルでは主要ドナー国及び国際機関の参加による月例ローカル・ドナー会合がUNDP代表を議長として開かれており、主要ドナー間の情報・意見交換が行われている。このほか、不定期的であるが、モンゴル政府や世界銀行主催によるテーマ別作業部会やワークショップも頻繁に開催されている。このような中、我が国は教育セクターの作業部会のドナー側共同議長をADBと、また都市開発計画セクターの作業部会のドナー側共同議長をドイツ（GTZ）と共に務めるなど、こうした協議に積極的に関与している。

表－4 我が国の年度別・援助形態別実績

（単位：億円）

年 度	円 借 款	無償資金協力	技 術 協 力
2005 年	29.81	40.06	20.46 (14.57)
2006 年	—	43.30	22.04 (16.26)
2007 年	288.07	41.34	19.49 (14.63)
2008 年	—	31.53	16.14 (11.54)
2009 年	28.94	31.35 (3.16)	12.86
累 計	708.08	894.48 (3.16)	317.98

- 注）1. 年度の区分は、円借款及び無償資金協力は原則として交換公文ベース、技術協力は予算年度による。
2. 「金額」は、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力はJICA経費実績及び各府省庁・各都道府県等の技術協力経費実績ベースによる。ただし、無償資金協力のうち、国際機関を通じた贈与（2008年度実績より、括弧内に全体の内数として記載）については、原則として交換公文ベースで集計し、交換公文のない案件に関しては案件承認日又は送金日を基準として集計している。草の根・人間の安全保障無償資金協力と日本NGO連携無償資金協力、草の根文化無償資金協力に関しては贈与契約に基づく。
3. 円借款の累計は債務繰延・債務免除を除く。
4. 2005～2008年度の技術協力においては、日本全体の技術協力事業の実績であり、2005～2008年度の（ ）内はJICAが実施している技術協力事業の実績。なお、2009年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示し、累計についてはJICAが実施している技術協力事業の実績の累計となっている。

モンゴル

表－5 我が国の対モンゴル経済協力実績

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

暦 年	政府貸付等	無償資金協力	技 術 協 力	合 計
2005 年	14.38	20.90	21.21	56.48
2006 年	-4.18	33.15	17.95	46.92
2007 年	-0.85	34.31	18.09	51.55
2008 年	6.00	37.26	17.44	60.70
2009 年	22.19	34.57 (6.01)	17.92	74.68
累 計	298.41	701.23 (6.01)	383.92	1383.56

出典) OECD/DAC

- 注) 1. 政府貸付等及び無償資金協力はこれまでに交換公文で決定した約束額のうち当該暦年中に実際に供与された金額(政府貸付等については、モンゴル側の返済金額を差し引いた金額)。
 2. 技術協力は、JICAによるもののほか、関係省庁及び地方自治体による技術協力を含む。
 3. 四捨五入の関係上、合計が一致しないことがある。
 4. 政府貸付等の累計は、為替レートの変動によりマイナスになることがある。

表－6 諸外国の対モンゴル経済協力実績

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	うち日本	合 計
2004 年	日本 65.57	ドイツ 26.54	米国 25.90	オランダ 9.51	フランス 5.26	65.57	147.40
2005 年	日本 56.48	ドイツ 28.17	米国 18.53	オランダ 7.49	オーストリア 3.26	56.48	126.71
2006 年	日本 46.92	ドイツ 29.73	イタリア 14.00	米国 12.42	オランダ 8.02	46.92	126.62
2007 年	日本 51.55	ドイツ 30.31	米国 12.70	オランダ 11.14	スペイン 8.96	51.55	140.31
2008 年	日本 60.70	米国 35.38	ドイツ 32.36	スイス 8.18	オランダ 6.55	60.70	161.02

出典) OECD/DAC

表－7 国際機関の対モンゴル経済協力実績

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	そ の 他	合 計
2004 年	IDA 47.19	ADB 36.98	CEC 4.04	EBRD 3.45	GEF 3.27	3.44	98.37
2005 年	ADB 25.82	IDA 12.06	CEC 6.36	IFAD 3.44	UNTA 3.20	2.76	53.64
2006 年	ADB 23.35	IDA 11.48	CEC 3.11	UNTA 2.38	IFAD 2.08	3.53	45.93
2007 年	IDA 21.15	ADB 17.14	GEF 10.70	UNTA 3.20	GFATM 3.01	8.28	63.48
2008 年	ADB 17.27	IDA 17.14	CEC 10.60	GFATM 4.42	UNDP 2.44	5.44	57.31

出典) OECD/DAC

- 注) 順位は主要な国際機関についてのものを示している。

表－８ 我が国の年度別・形態別実績詳細

(単位：億円)

年度	円 借 款	無 償 資 金 協 力	技 術 協 力
2004年度までの累計	361.26 億円 〔内訳は、2009 年版の国別データブック、もしくはホームページ参照 (http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/jisseki.html)〕	706.89 億円 〔内訳は、2009 年版の国別データブック、もしくはホームページ参照 (http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/jisseki.html)〕	248.11 億円 研修員受入 1,543 人 専門家派遣 544 人 調査団派遣 2,357 人 機材供与 2,145.08 百万円 協力隊派遣 211 人 その他ボランティア 42 人
2005年	29.81 億円 中小企業育成・環境保全ツーステップローン事業計画 (29.81)	40.06 億円 ウランバートル市給水施設改善計画 (国債 2/3) (6.07) 第二次初等教育施設整備計画 (2/2) (9.17) 第三次初等教育施設整備計画 (2/3) (7.84) 東部幹線道路建設及び道路建設機材整備計画 (1/2)(2/2 詳細設計) (5.44) 人材育成奨学計画 (3 件) (2.93) 食糧援助 (2.00) 貧困農民支援 (3.30) モンゴル音楽舞踊学校に対する楽器供与 (0.50) 草の根文化無償 (1 件) (0.09) 日本NGO支援無償 (2 件) (0.14) 草の根・人間の安全保障無償 (36 件) (2.58)	20.46 億円 (14.57 億円) 研修員受入 341 人 (158 人) 専門家派遣 62 人 (55 人) 調査団派遣 58 人 (57 人) 機材供与 71.83 百万円 (71.83 百万円) 留学生受入 927 人 (協力隊派遣) (38 人) (その他ボランティア) (28 人)
2006年	な し	43.30 億円 ウランバートル市給水施設改善計画 (国債 3/3) (9.52) 東部幹線道路建設及び道路建設機材整備計画 (2/2) (国債 1/4) (6.46) 第三次初等教育施設整備計画 (3/4) (8.87) セクター・プログラム無償資金協力 (8.00) 人材育成奨学計画 (4 件) (3.00) 食糧援助 (2.00) カラコルム博物館建設計画 (2.97) 草の根文化無償 (1 件) (0.08) 日本NGO支援無償 (2 件) (0.14) 草の根・人間の安全保障無償 (28 件) (2.26)	22.04 億円 (16.26 億円) 研修員受入 427 人 (256 人) 専門家派遣 247 人 (113 人) 調査団派遣 82 人 (64 人) 機材供与 132.03 百万円 (132.03 百万円) 留学生受入 1,010 人 (協力隊派遣) (29 人) (その他ボランティア) (11 人)
2007年	288.07 億円 新ウランバートル国際空港建設計画 (288.07)	41.34 億円 東部幹線道路建設及び道路建設機材整備計画 (2/2) (国債 2/4) (8.00) 第三次初等教育施設整備計画 (4/4) (5.26) ウランバートル市廃棄物管理改善計画(10.14) ノン・プロジェクト無償資金協力 (セクター・プログラム無償) (8.00) 人材育成奨学計画 (4 件) (3.27) 食糧援助 (4.00) 草の根文化無償 (2 件) (0.10) 日本NGO連携無償 (2 件) (0.13) 草の根・人間の安全保障無償 (23 件) (2.04) モンゴル自然史博物館展示及び視聴覚機材整備計画 (0.41)	19.49 億円 (14.63 億円) 研修員受入 507 人 (345 人) 専門家派遣 115 人 (109 人) 調査団派遣 111 人 (100 人) 機材供与 225.89 百万円 (225.89 百万円) 留学生受入 1,118 人 (協力隊派遣) (16 人) (その他ボランティア) (8 人)
2008年	な し	31.53 億円 ウランバートル市高架橋建設計画 (0.94) ダルハン市給水施設改善計画 (0.43) ノン・プロジェクト無償資金協力 (12.00) カラコルム博物館建設計画 (4.96) モンゴル国立人形劇場音響及び照明機材整備計画 (0.45) 人材育成奨学計画 (3 件) (2.77) 第四次初等教育施設整備計画 (0.79) 東部幹線道路建設及び道路建設機材整備計画 (7.24) 日本NGO連携無償資金協力 (1 件) (0.14) 草の根・人間の安全保障無償 (21 件) (1.81)	16.14 億円 (11.54 億円) 研修員受入 432 人 (357 人) 専門家派遣 126 人 (103 人) 調査団派遣 74 人 (74 人) 機材供与 27.55 百万円 (27.55 百万円) (協力隊派遣) (13 人) (その他ボランティア) (7 人)

モンゴル

年度	円 借 款	無 償 資 金 協 力	技 術 協 力
2009年	28.94 億円 (28.94)	31.35 億円 (2.30) (0.99) (2.53) (0.40) (5.61) (5.90) (2.68) (5.70) (2.08) (3.16)	12.86 億円 227 人 163 人 42 人 30.96 百万円 40 人 13 人
2009年 度まで の累計	708.08 億円	894.48 億円	317.98 億円 2,886 人 1,087 人 2,694 人 2,633.34 百万円 347 人 109 人

- 注) 1. 年度の区分は、円借款及び無償資金協力は原則として交換公文ベース、技術協力は予算年度による。
2. 「金額」は、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力はJICA経費実績及び各府省庁・各都道府県等の技術協力経費実績ベースによる。ただし、無償資金協力のうち、国際機関を通じた贈与（2008年度実績より記載）については、原則として交換公文ベースで集計し、交換公文のない案件に関しては案件承認日又は送金日を基準として集計している。草の根・人間の安全保障無償資金協力和日本NGO連携無償資金協力、草の根文化無償資金協力に関しては贈与契約に基づく。
3. 円借款の累計は債務繰延・債務免除を除く。
4. 「貧困農民支援」は、2005年度に「食糧増産援助」を改称したもの。
5. 「日本NGO連携無償」は、2007年度に「日本NGO支援無償」を改称したもの。
6. 2005～2008年度の技術協力においては、日本全体の技術協力の実績であり、2005～2008年度の（ ）内はJICAが実施している技術協力事業の実績。なお、2009年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示し、累計についてはJICAが実施している技術協力事業の実績の累計となっている。
7. 調査団派遣にはプロジェクトファインディング調査、評価調査、基礎調査研究、委託調査等の各種調査・研究を含む。
8. 四捨五入の関係上、累計が一致しないことがある。
9. 2006年度無償資金協力「カラコルム博物館建設計画」は案件として中止となっている。

表－9 実施済及び実施中の技術協力プロジェクト案件（終了年度が2005年度以降のもの）

案 件 名	協 力 期 間
モンゴル・日本人材開発センタープロジェクト	02. 1～07. 1
教員再訓練プロジェクト	03. 8～06. 8
気象予測及びデータ解析のための人材育成プロジェクト	05. 2～08. 3
湿原生態系保全と持続的利用のための集水域管理モデルプロジェクト	05. 4～10. 3
税務行政強化プロジェクト	05. 8～08. 7
会計・監査機能向上プロジェクト	05.10～08. 2
弁護士会強化計画プロジェクト	06. 5～08. 9
子どもの発達を支援する指導法改善プロジェクト	06. 5～09. 7
複合農牧業経営モデル構築支援プロジェクト	06. 6～09. 6
家畜感染症診断・予防のための地方獣医師育成プロジェクト	06. 7～09. 7
モンゴル・日本人材開発センタープロジェクト（フェーズ2）	07. 1～12. 1
銀行能力向上計画プロジェクト	07.10～10. 2
ウランバートル市廃棄物管理能力強化プロジェクト	09.10～12. 9
ウランバートル市大気汚染対策能力強化プロジェクト	10. 1～12.12
複合農牧業経営モデル普及システム強化プロジェクト	10. 3～13. 3
子どもの発達を支援する指導法改善プロジェクトフェーズ2	10. 3～13. 2

表－10 実施済及び実施中の開発調査案件（開発計画調査型技術協力案件を含む）（終了年度が2005年度以降のもの）

案 件 名	協 力 期 間
ゾド対策に向けた地方牧畜業体制改善支援計画調査	03. 2～06. 3
税務教育システム構築調査	03.12～05. 7
ウランバートル市廃棄物管理計画調査	04.11～07. 3
ウランバートル市都市計画マスタープラン・都市開発プログラム調査	07. 2～09.11

表－11 2009 年度協力準備調査案件

案 件 名	協 力 期 間
ウランバートル市水供給改善計画準備調査	09. 7～10. 3
淡水資源・自然保護センター建設計画事業化調査	09. 8～10. 3

表－12 2009 年度草の根・人間の安全保障無償資金協力案件

案 件 名
ウランバートル市スフバートル区第17地区生活道路改善計画
ウブスハンガイ県ボグド郡11年制学校寄宿舎改修計画
バヤンウルギー県デルン郡12年制学校寄宿舎改修計画
ウランバートル市バガノール区第138番幼稚園改修計画
ウムスゴビ県ダランザドガド郡第3番学校改修計画
バヤンホンゴル県ボーツァガーン郡病院改修計画
ホブド県ジャルガラント郡第6番幼稚園増築計画
オブス県ブフムルン郡9年制学校改修計画
トブス県ボルノール郡12年制学校寄宿舎及び食堂改修計画
ヘンティ県ヘルレン郡第2番幼稚園改修計画
セレンゲ県オルホントール郡教育関連施設生活インフラ改修計画
ボルガン県ヒシグウンドゥル郡12年制学校付属職業訓練実習棟改修計画
ウランバートル市ハンオール区第41番幼稚園改修計画
ドルノド県バヤンドン郡12年制学校及び寄宿舎改修計画
ドルノド県ヘルレン郡第2番幼稚園暖房設備改修計画
ウランバートル市ナライハ区障害児養護施設建設計画
ダルハンオール県ダルハン郡第18番幼稚園改修計画
ゴビアルタイ県フフモリト郡水供給改善計画
バヤンホンゴル県バヤンホンゴル郡総合生協12年制学校増築計画
ヘンティ県バヤンアドラガ郡9年制学校改修計画
フブスグル県ツァガーンオール郡12年制学校改修計画
アルハンガイ県チョロト郡12年制学校増築計画
セレンゲ県コルン郡環境教育センター建設計画
ゴビアルタイ県他5県雪害被災民支援計画
アルハンガイ県他5県雪害被災民支援計画

プロジェクト所在図

モンゴル

- ④⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵 㼶 㼷 㼸 㼹 㼺 㼻 㼼 㼽 㼾 㼿 㽀 㽁 㽂 㽃 㽄 㽅 㽆 㽇 㽈 㽉 㽊 㽋 㽌 㽍 㽎 㽏 㽐 㽑 㽒 㽓 㽔 㽕 㽖 㽗 㽘 㽙 㽚 㽛 㽜 㽝 㽞 㽟 㽠 㽡 㽢 㽣 㽤 㽥 㽦 㽧 㽨 㽩 㽪 㽫 㽬 㽭 㽮 㽯 㽰 㽱 㽲 㽳 㽴 㽵 㽶 㽷 㽸 㽹 㽺 㽻 㽼 㽽 㽾 㽿 㿀 㿁 㿂 㿃 㿄 㿅 㿆 㿇 㿈 㿉 㿊 㿋 㿌 㿍 㿎 㿏 㿐 㿑 㿒 㿓 㿔 㿕 㿖 㿗 㿘 㿙 㿚 㿛 㿜 㿝 㿞 㿟 㿠 㿡 㿢 㿣 㿤 㿥 㿦 㿧 㿨 㿩 㿪 㿫 㿬 㿭 㿮 㿯 㿰 㿱 㿲 㿳 㿴 㿵 㿶 㿷 㿸 㿹 㿺 㿻 㿼 㿽 㿾 㿿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎